## ２　研究の実際

### (3)　音楽を形づくっている要素（音楽の仕組み）を取り扱った指導

音楽を形づくっている要素の中で、「強弱」「速度」などは、児童生徒にとって比較的知覚することが容易であると考えられます。それに対し、複数の音を聴き分けたり同時に聴いたりすることが求められる「音楽の縦と横の関係」「テクスチュア」、音楽の前後関係や音楽の全体を踏まえて捉えることが求められる「反復」「問いと答え」「変化」「構成」「形式」などの要素は、「強弱」「速度」などの要素に比べると知覚することが難しく、また教師にとってもどういう場面でどう指導していいか分からないと感じている実態があります。

音の重なりや音楽の仕組みに関わる要素について、一つずつ解説していきます。

**表３　音の重なりや音楽の仕組みに関わる要素の意味と指導内容**

| 小学校 | | 中学校 | |
|---|---|---|---|
| 音の重なり | 複数の高さの音が同時に鳴り響くことによって生まれる縦の関係。<br>旋律やリズムなど音が重なり合うことによって生まれる響きのよさや美しさを感じ取ることが主なねらいとなる。 | テクスチュア | 音と音とが同じ時間軸上で垂直的にかかわったり、時間の流れの中で水平的にかかわったりして、織物の縦糸と横糸のような様相で様々な音の織りなす状態。<br>音や旋律の組合せ方、和音や和声、多声的な音楽、我が国の伝統音楽に見られる音と音とのかかわり合いなどがある。 |
| 和声の響き | 調のある音楽での音の重なりとその響き。ハーモニーとも呼ばれる。<br>合唱や合奏の活動を通して和音のもつ表情を感じ取ることができるようにする。また、長調及び短調の楽曲においては、基本となるⅠ、Ⅳ、Ⅴ及びⅤ７の和音を中心に指導する。 | | |
| 音楽の縦と横の関係 | 音の重なり方を縦、音楽における時間的な流れを横と考え、その縦と横の織りなす関係。<br>音の重なり方に着目し、音の重なりがもつ表情やその表情が変化するよさや美しさを味わうようにする。 | | |
| 反復 | 旋律やリズムの繰り返し。<br>「リズムや旋律などが連続して繰り返される反復」「音楽のいくつかの場所で合間をおいて繰り返される反復」「Ａ－Ｂ－Ａの三部形式に見られる再現による反復」などがある。 | 構成 | 反復、変化、対照などの音楽の原理。<br>我が国の伝統音楽に見られる手などの旋律型を基にした構成などを扱うこともある。<br>※手…器楽部分の旋律また |

| 小学校 | | 中学校 | |
|---|---|---|---|
| | | | は旋律型。 |
| 問いと答え | ある音やフレーズ、旋律に対して、一方の音やフレーズ、旋律が互いに呼応する関係にあるもの。<br>例えば、「Ａという問いに対して同じように答えるもの（模倣）」「Ａに対してＢやＣといった異なった音やフレーズ、旋律で答えるもの（対照）」「長いＡに対して短いＢを挿入するもの（合いの手）」などがある。また、一人が歌いかけ、それに大勢が答えて歌うという形式（音頭一同形式）もある。 | 形式 | 我が国や諸外国の音楽に見られる様々な楽曲の仕組み。<br>二部形式、三部形式、ソナタ形式などがある。我が国の伝統音楽に見られる序破急、音頭一同形式などを扱うことも考えられる。<br>※音頭一同形式…音頭のものが歌い出し、それに一同が唱和するという演唱形式。 |
| 変化 | 音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組みのかかわり合いが変わることによって起こる曲調の変化。<br>曲の途中に起こる音色や旋律、速度、調などの曲調の変化を聴き取るようにする。 | | |

小学校学習指導要領解説　音楽編（平成20年８月）p 33、34、49、65、66、71
中学校学習指導要領解説　音楽編（平成20年９月）
教育芸術社　文部科学省編　教育用音楽用語（平成19年５月）p 55、83

これらの要素についても、「速度」「強弱」のような指導しやすい要素だけに偏ることなく、計画的・継続的に指導していくことが大切です。

「音の重なり」や「テクスチュア」などの要素や、音楽の仕組みに関わる要素をどのように授業で取り扱っていけばよいかについて、要素ごとの指導場面例を示しています。

## 小学校

### 音の重なり　を扱う指導場面例

「音の重なり」は中学年から取り扱うようになっています。中学年くらいになると、合唱や合奏など、歌声や楽器を重ねた活動を楽しむことができるようになります。そこで、伴奏の響きや副次的な旋律の響きを聴きながら歌ったり、重奏や合奏で音を合わせる喜びを味わったりすることができるようにします。そのために、歌唱では、楽曲の一部が二部合唱になっている合唱曲、楽曲全体が簡単な二部合唱になっている合唱曲などを準備することが大切です。また、器楽では、自分が担当しているパートやそれぞれ楽器の役割を意識できるよう、互いの演奏を聴き合う時間を設けることも大切です。

## 音の重なり

「もみじ」

① 前半部分の旋律と副次的な旋律を、楽譜を見ながら聴き、音の重なり方がどうなっているかを考えさせる。
・輪唱のように(掛け合いに)なっている。
・「数ある中に」のところは、旋律と副次的な旋律が違うリズムになって重なっている。
② 後半部分の旋律と副次的な旋律を、楽譜を見ながら聴き、音の重なり方がどうなっているかを考えさせる。
・前半とは異なり、同じリズムで音程が違う２つの旋律が重なって響きをつくっている。
★音の重なり方の違いを、オルガンなどの鍵盤楽器で演奏して示すと、分かりやすい。

## 和声の響き　音楽の縦と横の関係　を扱う指導場面例

「和声の響き」「音楽の縦と横の関係」は高学年で取り扱うようになっています。「和声の響き」とは、「調のある音楽での音の重なりとその響き」のことを示します。したがって、楽曲の一部が二部合唱になっている合唱曲、楽曲全体が二部合唱になっている合唱曲などを学習する際は、取り扱うことができる要素です。「音楽の縦と横の関係」とは、「音の重なり方を縦、音楽における時間的な流れを横と考えときの、その縦と横の織りなす関係を示していますので、一部分でも二部に分かれるような合唱曲や、２パート以上で編成されている器楽曲などを教材は、「音楽の縦と横の関係」を扱うことができます。

小学校で学習する「音の重なり」「和声の響き」「音楽の縦と横の関係」は、中学校では「テクスチュア」という言葉を用いて取り扱われます。

## 和声の響き

「こきょうの人々」

① 旋律、和音、低音の各パートを弾いたり、２つのパートを合わせて弾いたりして聴かせて、音の重なりやその響きを感じ取らせ、旋律に沿って低音や和音が変化していることに気付かせる。
② ハ長調の和音（１度の和音、４度の和音、５度の和音、５度の７の和音）を鍵盤楽器で演奏させ、それぞれの響きの違いを感じ取らせる。
③ グループごとに、和音伴奏の部分を、リズムを変えたり分散和音にしたりするなど、鍵盤楽器で弾き試しながら考えさせる。

## 音楽の縦と横の関係

「つばさをください」

① ２つの部分(ア・イ)に分け、それぞれの場面ごとの旋律の動きや強弱などを確認させる。
② ア・イの音の重なりがどうなっているかを、楽譜を見ながら確認させる。
ア　１つの旋律になっている部分。
イ　同じリズムで音が違う旋律が寄り添って重なって和音を作っている。「ゆきたいよ」「はためかせ」のところは、副次的な旋律のリズムが異なっている。
③ グループで、歌詞の内容や曲想、音の重なり方を理解して、どのように歌えばよいか話し合わせる。グループごとに歌い試しながら発声、発音、歌い方などを工夫させる。

## 反復　問いと答え　変化を扱う指導場面例

「反復」「問いと答え」「変化」は、低学年から取り扱う音楽の仕組みを表す要素です。身の回りの多くの曲はこれらの要素が関係しています。

「反復」には、リズムや旋律が連続して繰り返される反復、音楽のいくつかの場所で合間をおいて繰り返される反復、Ａ－Ｂ－Ａの三部形式に見られる再現による反復があります。

「問いと答え」には、Ａという問いに対して同じように同じように答えるもの(模倣)、Ａに対してＢやＣといった異なった音やフレーズ、旋律で答えるもの(対照)、長いＡに対して短いＢを挿入するもの(合いの手)などがあります。また、一人が歌いかけ、それに大勢が答えて歌うという形式もあります。

### 反復　変化　「白鳥」

① 音楽を「はじめ」「なか」「おわり」の３つの部分に分けて、旋律に着目して聴かせる。
② 「はじめ」「なか」の旋律の動きを表した図形楽譜の中から「はじめ」の旋律に合うものを選ばせる。その後「はじめ」の図形楽譜を見せながら「なか」を聴かせ、旋律が変化していることに気付かせる。
③ 「はじめ」「なか」の図形楽譜を見せながら「おわり」を聴き、「はじめ」の旋律が反復していることに気付かせる。

### 問いと答え　「やまびこごっこ」「かくれんぼ」

① 「やまびこごっこ」を２つのグループに分かれて歌い、旋律が呼び掛け合っていることに気付かせる。
② 声の感じや強さを工夫して「やまびこごっこ」をする。
③ 「かくれんぼ」の後半を２つのグループに分かれて歌い、旋律が呼び掛け合っていることに気付かせる。
④身近な曲で呼び掛け合っている曲を探し、歌う。

# 中学校

## テクスチュア を扱う指導場面例

「テクスチュア」に関する学習では、音や旋律の組合せ方、和音や和声、多声的な音楽、我が国の伝統音楽に見られる様々な音と音との関わり合いなどについて指導することが考えられます。二部や三部、四部に分かれている合唱曲、２パート以上で編成されている器楽アンサンブル曲などを教材で扱う際は、ぜひ「テクスチュア」を取り扱った指導を行ってほしいと考えます。

### 「旅立ちの日に」

① ３つの場面に分け、それぞれの場面ごとの音楽的な特徴（旋律、強弱など）を知覚・感受する。
② 楽譜を見ながら部分ごとのテクスチュアを確認する。
　Ａ ３つの声部がユニゾンで始まり、９小節目から女声、男声の混声二部合唱になり、13小節目から混声三部合唱になる。曲が進むにつれて声部が増えていく。
　Ｂ 三つの声部が同じリズムで進行しながら、ハーモニーを作っている。
　Ｃ 「今　別れのとき～この広い」までは、女声と男声が掛け合いのようになっている。最後の「大空に」はＢと同じように、三つの声部がハーモニーを作っている。
③ グループで、歌詞の内容や曲想、パートの役割と全体の響きとの関わりを理解して、どのように歌えばよいか話し合う。グループごとに歌ったり、試したりしながら発声、発音、歌い方などを工夫し、ふさわしい音楽表現を追求する。

## 構成 を扱う指導場面例

### 動機を生かした旋律創作

① 「交響曲第５番ハ短調」の動機のリズムの反復に着目して、第１楽章の冒頭部分を聴き、第１主題の特徴を捉える。そして、第１主題を用いて、「動機」と「動機をもとにした反復、変化、対照などの構成」の働きや役割について感じ取らせる。
② 自分のイメージに合う２小節の旋律を作り、それを反復させて３～４小節をつくり、変化させて５～６小節をつくり、８小節程度のまとまりのある旋律に仕上げる。

## 形式 を扱う指導場面例

### 鑑賞教材「春」

① 「どんな情景が思い浮かぶか」「それは音楽のどんなところからか」を音色、旋律、テクスチュア、形式を意識しながら聴かせる。
② 同じ旋律が繰り返されているところと、そうでないところを意識して聴かせる。
③ ソネットＡ～Ｅのカード、独奏、重奏、合奏のカードを準備し、曲の進行に合わせて並べ替え、Ａ－Ｂ－Ａ－Ｃ－Ａ－Ｄ…となっていることや、合奏と重奏・独奏が交互に出てくることに気付かせる。（Ａの部分の反復、テクスチュアの変化について確認する。）
④ 曲を聴いて気付いたことをまとめさせ、リトルネッロ形式とその特徴について知らせる。